

えりも町における秋の小鳥類の標識調査

村上速雄¹⁾

1. 調査目的

鳥類標識調査は足輪によって鳥を個体識別し、再捕獲や観察によって渡りや移動、寿命や繁殖開始年齢などの生態を解明することにある。また、観察では識別が困難な種や潜行性、夜行性のため観察しづらい鳥種を捕獲することも多く、地域の鳥相を把握するうえで役立つことが多い。こうした放鳥や再捕獲の記録は、鳥類を保護・管理するうえでの基礎資料となる。

調査地としたえりも町襟裳岬は北海道中央を縦断する日高山脈の南端に位置し、太平洋に突き出た岬である。また、この地域は標識鳥の回収記録の解析(山階鳥類研究所1995)から、渡り鳥の集結・通過地として注目されている。また北海道の鳥相は日高山脈の西側、東側で変わる(藤巻2000)とされることから、この地域の鳥相を把握することは意義のあることである。しかし、これまでに地元で調査員がいなかったため長期的に標識調査が行われていなかった。今回は2001年から2003年まで調査適地を探しながら9月から10月にかけて標識調査を行った。調査地は日高山脈の末端に近い山地のえりも町追分峠(43° 01' N, 143° 13' E)と本町に近い平地のえりも町歌別コロップ川(43° 00' N, 143° 10' E)の2ヶ所で調査を行った。調査概略および結果をそれぞれ報告する。なお鳥類標識調査は環境省の許可を受けて行った。

2. えりも町追分峠での調査

2.1 2001年の調査

2.1.1 調査概略

2001年はえりも町追分峠で9月15日から10月20日までの間に11日間おこなった。えりも町追分峠は日高山脈の南端に位置しえりも町庶野とえりも町歌別を結ぶ峠である。調査地の植生は樹高4~5mのミズナラ、植樹したアカエゾマツなどの混交林で林床は草丈の低いミヤコザサである。調査には30メッシュのかすみ網を2枚、36メッシュのかすみ網を3枚用いた。また捕獲効率を上げるためポータブルCD再生機と小型スピーカーを使用して夜明け1時間前からノゴマ、アカハラ、夜明け後からアオジ、シジュウカラなどの囀りを流した。

2.1.2 調査結果

調査では15種331羽(新放鳥329羽、再捕獲2羽)放鳥した。日別の放鳥数を表1に示した。優先種はアオジで171羽放鳥し全体の52%を占め、10月16日に渡りの山をむかえた。次いでウグイスの45羽(14%)であった。アオジ以外の種は捕獲数が少なかったため動向が不明であった。

2.1.3 回収鳥

回収記録はアオジで2例あった。1例は2001年10月7日に根室市で放鳥されたものが10月16日にえりも町追分峠で回収された。9日間で約240km移動した。

1) 日本鳥類標識協会所属 053-0042 北海道苫小牧市三光町3-11-21

2例は10月16日に本調査地で放鳥されたものが、福島県福島市佐原字台で2002年1月2日に回収された。78日間で約600km移動した。

2.2 2002年の調査

2.2.1 調査概略

2002年9月4日から10月9日までの間に10日間おこなった。調査地の植生は2001年と同様であった。

調査には30メッシュのかすみ網を2枚、36メッシュのかすみ網を3枚用いた。また、捕獲効率を上げるため、カーステレオと15Wスピーカー1台を使用して夜明け1時間前からノゴマ、アカハラ、クロツグミ、夜明け後からアオジ、シジュウカラなどの囀りを流した。

2.2.2 調査結果

調査では15種85羽放鳥(再捕獲なし)し、日別の放鳥数を表2に示した。本年は2001年より早い時期に調査をおこなったが、捕獲数が少なかったため顕著な渡りの山は見られず、10月9日に終了した。

2.2.3 回収記録

本調査地で放鳥した鳥が他から回収された記録、および他で放鳥され本調査地で回収された記録は1例もなかった。

3. えりも町歌別コロップ川での調査

3.1 2002年の調査

3.1.1 調査概要

えりも町歌別コロップ川は追分峠の西に位置する。2002年は10月10日から10月31日までの間に6日間おこなった。コロップ川の調査地は牧草地跡で植生は主にヨモギ・イネ科草本からなる。また、牧草

地の両側に南北にはしる広葉樹の尾根がありその林縁に樹高1.5mのノリウツギの群落がある。

調査には30メッシュのかすみ網を0~2枚、36メッシュのかすみ網を3枚用いた。ノリウツギの群落を囲むように張り、捕獲効率を上げるためカーステレオと15Wスピーカー1台を使用して夜明け前からノゴマ、アカハラ、クロツグミ、夜明け後からアオジ、シジュウカラ、カシラダカなどの囀りを流した。

3.1.2 調査結果

調査では18種543羽(新放鳥539羽、再捕獲4羽)放鳥した。日別の放鳥数を表3に示した。優占種はアオジで403羽放鳥し全体の75%を占め、10月13日に渡りの山を迎えた。次にシジュウカラの42羽(8%)であった。アオジ、シジュウカラ以外の種は捕獲数が少なかったため動向が不明であった。

3.1.3 回収鳥

本調査地で放鳥した鳥が他から回収された記録、および他で放鳥され本調査地で回収された記録は1例もなかった。

3.2 2003年の調査

3.2.1 調査概略

2003年は10月12日から10月21日までの間に10日間おこなった。調査地の植生は2002年と同様であった。

調査は30メッシュのかすみ網を0~3枚、36メッシュのかすみ網を3枚用いた。ノリウツギの群落を囲むように張り、捕獲効率を上げるためカセットテープ再生機とポータブルアンプスピーカーを組み合わせたもの2台と、カーステレオと15Wスピーカー1台を使用して夜明け1時間前からノゴマ、

表1. 2001年えりも町追分峠での日別放鳥一覧

調査月日		2001/9/15~2001/10/20												
月日		9/5	10/7	10/8	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	
天候		霧のち 雨	曇	曇	晴	曇時々 雨	快晴	雨	曇時々 晴	雨のち 曇	晴	晴	晴	合計
新放鳥数		1	53	31	8	11	2	0	83	8	64	40	28	329
再捕獲数						1			1					2
種名/種類数		1	7	8	2	4	2		8	6	9	12	7	25
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	1												1
オオコノハスク	<i>Otus lempiji</i>											1		1
アカケラ	<i>Dendrocopos major</i>								1					1
コケラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		2						1					3
ヒンスイ	<i>Anthus hodgsoni</i>											1		1
モス	<i>Lanius bucephalus</i>			1										1
コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>									1				1
ノコマ	<i>Luscinia caliope</i>					1	1				2	1		5
ルビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>												3	3
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		3	1										4
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>									1	14	2	3	20
シロハラ	<i>Turdus pallidis</i>								2	1			2	5
マミチャシナイ	<i>Turdus obscurus</i>										1			1
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>										1			1
ウケイス	<i>Cettia diphone</i>		8	6					6	1	4	11	9	45
R						1								1
メホソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>		1								2	1		4
エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>								1					1
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>			3										3
コガラ	<i>Parus montanus</i>											2		2
ヒガラ	<i>Parus ater</i>				6							2		8
シジュウカラ	<i>Parus major</i>		13	8	2				1			1		25
コジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>			1								1		2
アオシ	<i>Emberiza spodocephala</i>		25	9		9	1		69	3	29	16	9	170
R									1					1
クロシ	<i>Emberiza variabilis</i>					1			2	1	9	1	2	16
カケス	<i>Garrulus glandarius</i>		1	2							2			5

Rは再捕獲

表2. 2002年えりも町追分峠での日別放鳥一覧

調査月日		2002/9/4~2002/10/9											
月日		9/4	9/5	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/9	
天候		快晴	快晴	曇	雨のち 晴	快晴	晴	晴のち 曇	晴のち 曇	雨	曇	曇時々 雨	合計
新放鳥数		6	6	4	4	6	17	8	10	0	5	19	85
再捕獲数													0
種名/種類数		4	6	4	2	2	8	4	3		4	4	15
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		1				1						2
ヤマシキ	<i>Scolopax rusticola</i>		1										1
アカケラ	<i>Dendrocopos major</i>		1										1
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	3	1	1		2	2	3	2		2	2	18
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>										1		1
ヤフサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	1											1
ウケイス	<i>Cettia diphone</i>						7	3	1			1	12
エソセンニュー	<i>Locstella fasciolata</i>										1		1
メホソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>		1					1					2
エソムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	1											1
キヒタキ	<i>Ficedula narcissina</i>			1	2		2						5
シジュウカラ	<i>Parus major</i>						1						1
アオシ	<i>Emberiza spodocephala</i>		1	1	2	4	2	1	7		1	15	34
クロシ	<i>Emberiza variabilis</i>	1		1			1					1	4
カケス	<i>Garrulus glandarius</i>						1						1

表3. 2002年えりも町歌別コロップ川での日別放鳥一覧

調査月日		2002/10/10~2002/10/31						
月日		10/10	10/11	10/12	10/13	10/30	10/31	
天候		曇時々雨	快晴	快晴	晴	快晴	快晴	合計
新放鳥数		26	91	228	135	30	29	539
再捕獲数							4	4
種名/種類数		6	8	9	9	8	8	18
オオコハスク	<i>Otus lempiji</i>			1				1
モス	<i>Lanius bucephalus</i>				1			1
ノコマ	<i>Luscinia calliope</i>	2	1	8	4	1		16
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	3	3	4	5		1	16
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>				1	1	3	5
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	2		1		6	2	11
メホソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	1		1	1			3
エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>				12		4	16
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>		1			1		2
シジュウカラ	<i>Parus major</i>		12	8	15	5	2	42
	R						4	4
キハシ	<i>Certhia familiaris</i>						1	1
メシロ	<i>Zosterops japonica</i>		1	1				2
ホオシロ	<i>Emberiza cioides</i>	1						1
カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>					4	8	12
アオシ	<i>Emberiza spodocephala</i>	17	69	203	95	11	8	403
クロシ	<i>Emberiza variabilis</i>		3					3
ヘニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		1			1		2
カケス	<i>Garrulus glandarius</i>			1	1			2

Rは再捕獲

表4. 2003年えりも町歌別コロップ川での日別放鳥一覧

調査月日		2003/10/12~2003/10/21										
月日		10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	
天候		曇のち晴	曇のち晴	曇のち雨	曇時々雨	曇時々雨	快晴	快晴	雨	快晴	快晴のち曇	合計
新放鳥数		208	177	32	130	35	160	166	0	115	169	1190
再捕獲数			1			1	1	1				4
種名/種類数		8	7	5	7	6	11	7		9	11	18
ヒンスイ	<i>Anthus hodgsoni</i>						1	1		2		4
モス	<i>Lanius bucephalus</i>									1	1	2
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	1	1	4	2		2				3	13
コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>					2						2
メホソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	1										1
ノコマ	<i>Luscinia calliope</i>	1	2	3	4		4	4		6	2	26
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		1	1	2			2		1	2	9
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	1	1		1		2	10		3	13	31
ゴソユウカフ	<i>Sitta europaea</i>						1					1
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	1										1
コカラ	<i>Parus montanus</i>					1						1
シジュウカラ	<i>Parus major</i>	4			1	4	8				6	23
ホオシロ	<i>Emberiza cioides</i>									1	1	2
カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>				7		4	5		9	38	63
アオシ	<i>Emberiza spodocephala</i>	168	167	22	113	24	134	137		90	98	953
	R		1			1	1	1				
クロシ	<i>Emberiza variabilis</i>		3	2		2	1				2	10
オオジュリン	<i>Emberiza shoenioides</i>						1					1
ヘニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	29	2			2	2	7		2	3	47

Rは再捕獲

アカハラ、クロツグミ、夜明け後からアオジ、シジュウカラ、カシラダカなどの囀りを流した。

3.2.2 調査結果

調査では18種1194羽(新放鳥1190羽、再捕獲4羽)放鳥した。日別の放鳥数を表4に示した。優占種はアオジで956羽放鳥し全体の80%を占めた。調査初日の10月12日から13日に渡りの山を示し20日以降減少した。次にカシラダカで63羽(5%)、ベニマシコで47羽(6%)、アカハラで31羽(3%)であった。ベニマシコについては捕獲数のばらつきが大きかった。アカハラ、カシラダカについては10月18日以降に捕獲数が増加した。上記以外の種は捕獲数が少なかったため動向が不明であった。

3.2.3 回収鳥

回収記録はアオジで1例であった。2002年10月12日に根室市で放鳥されたものが2003年10月18日にえりも町コロップ川で回収された。1年0ヶ月6日間後の長期回収であった。

4. 追記

えりも町襟裳岬は絶えず風が強いかすみ網を用いた調査は行わなかった。しかし建物に進入してくる個体があったので標識放鳥した。

建物に進入するパターンは2例あり、1例は日中襟裳岬先端付近に建てられた施設『風の館』に迷い込む例と、2例は夜間人家に進入する例であった。

『風の館』は鳥が一度入ると出られなくなる巨大な畏の構造である。夜間進入したのは人家の明かりに誘引されたためと思われる。

2001年に日中放鳥はウグイスで10月17日に1例、18日に2例、カケスで10月18日に1例、ゴジュウ

カラで10月19日に1例、夜間放鳥した例はノゴマで10月13日1例、クロジで10月17日に1例であった。

2002年に放鳥はなかった。

2003に日中放鳥した例はウグイスで10月14日に1例であった。夜間放鳥した例はなかった。

本調査地で放鳥した鳥が他から回収された記録、および他で放鳥され両調査地で回収された記録は1例もなかった。

5. 考察

本調査地での回収記録はアオジ2例でいずれも根室市で放鳥された個体であった。

これは道東地方のアオジの一部はえりも町付近を通過していることを示していると考えられた。

本調査地の鳥の動向は最も多く放鳥されたアオジは10月12～16日に渡りの山がみられた。アオジの渡りの山を比較するため、1974年からモニタリングされている根室市川口の風蓮湖ステーションの結果と比較すると風蓮湖ステーションでは年によって変わるが10月10日前後に渡りの山をむかえる(山階鳥類研究所1994～1998)が、本調査地では風蓮湖ステーションに比べ渡りの山が2～7日遅かった。またカシラダカ、アカハラについては10月下旬に渡りの山がくると考えられた。

しかし、アオジについては風蓮湖ステーションで渡りの山をむかえる10月10日前後にえりも町で調査をしておらず、またアカハラ、カシラダカについても捕れはじめた10月20日から2～3日後に調査を終了していた。アオジについては10月10日前から、アカハラ、カシラダカについては10月15日ころから11月まで調査日数をのばせばはっきりした動向がうかがえると思われた。上記以外の種は捕獲数が

少なかったため動向は分からなかった。

注目に値する放鳥例としてカシラダカ、クロツグミ、ホオジロ、メジロがあげられる。これらは日高山脈西部では多く捕獲されているが、東部では少ない(山階鳥類研究所 1994~1998)。カシラダカは春、秋の渡りの時期には北海道各地で確認され、冬季は一部地域で越冬している個体が確認されていた(藤巻 2000)。またクロツグミ、ホオジロ、メジロは西部では多く繁殖しているが東部では少数しか繁殖していない(藤巻 2000)。カシラダカは、えりも町で捕獲されたことで、この付近は秋の渡りの中継地か、越冬地と考えられた。またクロツグミ、ホオジロ、メジロは、えりも町で捕獲されたことで、この付近は秋の渡りの中継地か、繁殖地と考えられた。

より鳥相を把握するために、春の渡りの時期や繁殖期に標識調査を行う必要がある。その時期の調査により、えりも町ではこれらの種が渡りの中継地として利用しているのか、または繁殖しているのかが詳しく解明されると考えられる。

襟裳岬先端付近の日夜、人家に鳥が進入したことから一部の種類は渡るとき襟裳岬上空を日夜ともに通過していたと考えられた。また夜間、人家に進入したことから夜間かすみ網の前に照明を置いて鳥を誘引して捕獲する方法が考えられた。

3年間の調査した結果ではデータ数が少なく、渡りの状況を解明するにはさらにデータの蓄積が必要である。特にえりも町歌別コロップ川で種数及びアオジが多数捕獲できたので、今後、定期的かつ8月上旬から11月上旬まで長期的に調査をおこなう予定である。

6. 謝辞

本調査に多数の助言をしていただいた山階鳥類研究所の佐藤文男氏、本調査地にて協力されたえりも町郷土資料館の中岡利泰氏、『風の館』の石川慎也氏にここで深く感謝申し上げる。

7. 引用文献

山階鳥類研究所(1993)鳥類観測ステーション報告。

p 89~90, 112~119, 194.

山階鳥類研究所(1994)鳥類観測ステーション報告。

p 98~99, 118~125, 179.

山階鳥類研究所(1995)鳥類標識調査報告書。p 76

~77, 140~147, 131~135, 203.

山階鳥類研究所(1996)鳥類標識調査報告書。p 27

~29, 158~163, 211.

山階鳥類研究所(1997)鳥類標識調査報告書。p 28

~29, 162~169, 213.

山階鳥類研究所(1998)鳥類標識調査報告書。p 42

~49, 136~143, 198.

日本鳥学会(2000)日本鳥類目録。改定第6版。

藤巻裕蔵(2000)北海道鳥類目録。改定第2版。